

国際室

編集：日本弁護士連合会
国際室

たより

No. 54

会員専用ウェブサイトの
国際ページはこちら



(本紙に記載されている
イベント等の詳細をご覧
いただけます。)

「国際分野で活躍するための法律家キャリアセミナー」 ～講師からのアドバイス～

本年9月17日、「国際分野で活躍するための法律家キャリアセミナー」(日弁連主催、法務省・外務省共催)が開催され、官庁、国際機関、法律事務所等、様々な場で国際業務に従事する法律家等10名が登壇し、講演を行いました。本記事では講師からのアドバイスの一部を、Q&A形式にまとめてご紹介します。

Q 難関と言われる国際機関で職を得るためのコツは？

- 1つのポジションに数百件の応募があることもあり、選考では、他の国際機関での経験が重視される。インターンも重要な経験としてカウントされるため、駐日事務所でのポジションを含め、国際機関でのインターンを経験しておくことをお勧めする。また、最初からフルタイム等良い条件にこだわらずに、少しずつキャリアアップしていくことも考えてほしい。
- 採用する側にとっても大変な作業。カバーレターの英語のライティングがおかしいと、審査書類の中身を見ずに落とされてしまうこともある。審査書類だけでなく、カバーレターにもミスがないか、十分にチェックいただきたい。

Q 省庁での国際公務の後のキャリアには、どのようなものがあるか？

法律事務所への復帰・就職のほか、国際機関への

就職を目指す、他の政府機関の任期付職員となるなど、様々な道がある。

Q 一般民事の業務経験は国際業務で役立つか？

国際業務でも、法的な思考や日本の法律の知識が必要になる場面はたくさんある。また、国際司法支援では、弁護士会の会務や公益活動なども含め、日本の様々な制度の具体的な経験を踏まえて、途上国に助言、提案することも多い。

Q 外国人事件の醍醐味は？

一般的な法律案件としての性質に加え、どの在留資格を有しているか、日本語能力の有無、家族の帯同の有無等の事情も考慮する必要があり、案件処理がより複雑になる。しかし困難だからこそやりがいがあり、また同様の案件に取り組む仲間と価値観を共有しながら対応できることも、励みになる。

Q 国際司法支援に関心があるが、何から始めればよいか

具体的な求人情報は、日弁連の国際メルマガのほか、JICAが開設している「パートナー」というサイト (<https://partner.jica.go.jp/>) に掲載されるので、登録を勧める。また、法務省や慶応大学、名古屋大学、JICA等で開催している一般公開のイベントに



はぜひ参加してほしい。

Q 英語をスキルアップするための方法は？

地道な勉強に加え、仕事の中で使ってみることが重要。ライティングなら、自分で書いてみてネイティブに添削してもらおう、という方法が有効。

Q 他に必要なことは？

様々な国籍・バックグラウンドの人と一緒に仕事をするため、コミュニケーション能力も重要。また、振り返ってみると、人との出会い、運と縁も重要だった。
(国際室嘱託 坂野 維子)

第32回アジア弁護士会会長会議(POLA)

今年の9月22日、23日、シンガポールにおいて第32回アジア弁護士会会長会議が開催されました。日弁連からは、小林元治会長、松村真理子副会長、石井邦尚事務次長がオンラインで参加しました。

小林会長は、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)をテーマとしたセッションにパネリストとして登壇し、弁護士のD&Iの推進のためには、ジェンダーバイアスの除去、セクハラ・パワハラの根絶、女性の会務参加、経済的格差の解消、啓発プログラムの作成・研修の実施の5つが重要であるとして、日弁連が行っている具体的な施策を紹介しま

した。同セッションではニュージーランド法曹協会の副会長、フィジー法曹協会副会長らもパネリストとして参加しましたが、どの国においても、トップレベル、マネジメントレベルになると女性が圧倒的に少ないという問題意識が共有され、なぜそのような状況になっているのか、出産育児の際の支援策やワーク・ライフ・バランスについての意識の共有の必要性などについても議論されました。

若手弁護士をテーマとするセッションでは、台湾と韓国の状況について紹介されました。いずれも弁護士の数が過去10年間で大幅に増えた一方で訴訟

事件数はほぼ横ばいであるため、弁護士間の競争が激しくなっていることが紹介されました。また、若手弁護士は新しい技術への理解度がベテランの弁護士よりも高いと考えられていることから、ITやAI、仮想通貨など新しい業界で顧問先を獲得するなど非常に上手く業務を拡大している者も出てきているとの話があり、日本の状況と同じで興味深いと感じました。

(国際室嘱託 小野 有香)

AIJA (若手法曹国際協会) 2022年シンガポール年次総会

AIJA (Association Internationale des Jeunes Avocats - International Association of Young Lawyers - 若手法曹国際協会) の年次総会が8月末にシンガポールで開催されました。

AIJAは1962年に設立された、原則45歳以下の弁護士・法曹関係者のみが個人会員になることのできる国際法曹団体です。日弁連は2016年に団体会員になり、2017年に東京で年次総会が開催されました。現在、約100か国から約4000名の会員が所属しています。

昨年のチューリッヒでの総会に続き、今年は The Future of the Legal Profession: Reunite and Embrace the Change をテーマにシンガポールで対面で総会が開催され、日本を含む世界各国から約420名の参加者が集まり、盛大な会となりました。

45歳以下の若手弁護士限定のネットワークであることから、会員同士気軽に打ち解けることができる雰囲気があり、日中のセッションだけでなく、夜は開催国の弁護士が自宅に参加者を招く Hospitality



Dinnerや各種レセプション、パーティー、半日のDay Out等イベントも盛り沢山です。海外の弁護士とのネットワーキングに慣れていない若手の弁護士にとっては、ネットワーキングの訓練の場になりますし、多くの友人を作ることもできます。

欧州発祥の団体であることから、アジアでの知名度はまだ高くありませんが、伝統のある良質な国際団体で、毎月どこかでイベントが開催されており、来年の総会はリオデジャネイロで開催されます。若手の先生方は日弁連の国際会議若手会員参加補助制度を利用して参加されてはいかがでしょうか。

(会員 金久 直樹)

日弁連海外ロースクール 推薦留学制度 帰国者による 報告会のご案内 (12月5日(予定))

日弁連では、海外の5大学と協定を締結し、会員を留学生として推薦・派遣しています。これまでに80名以上の会員が本制度を利用して留学を果たしています。

この度、留学を終えたばかりの会員が留学の報告を行う会の開催を予定しています。経験者に直接質問をすることができる機会でもありますので、留学を考えている方はぜひご参加ください。

開催概要(予定)

日時：2022年12月5日(月) 午後6時～7時30分
開催方法：Zoomによるオンライン開催
参加申込方法：開催決定次第、日弁連一般ウェブサイトに掲載します。